

②国際協力・交流等に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信（セ01）	文化遺産国際協力センター	51
東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力（セ02）	文化遺産国際協力センター	53
西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業（セ03）	文化遺産国際協力センター	55
在外日本古美術品保存修復協力事業（セ04）	文化遺産国際協力センター	57
ユーラシア壁画の調査研究と保存修復（セ06）	文化遺産国際協力センター	59

文化財保護に関する国際情報の収集・研究・発信 (②セ01-14-4/5)

目 的

文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力等の情報を収集、分析して活用するとともに、国際共同研究を通じて保存・修復事業を実施するために必要な研究基盤整備を行う。また研究機関間の連携強化や共同研究、研究者間の情報交換の活発化、継続的な国際協力のネットワークを構築し、その成果をもとにアジア諸国における文化財保存・修復事業を推進する。

成 果

1. 国際会議等出席

文化財保護の国際動向を把握し、国内外の関連機関との連携を深めるために、以下の会合に参加した。世界遺産委員会（ドーハ、2014（平成26）年6月15日～25日）、奈良文書20周年記念会合（2014（平成26）年10月22日～25日）、ICOMOSの総会（フィレンツェ、2014（平成26）年11月9日～14日）、ICCROMの理事会（ローマ、2014（平成26）年11月17日～20日）、無形文化遺産政府間委員会（パリ、2014（平成26）年11月24日～28日）

世界遺産委員会では、事前調査や会議の分析を通じて、日本政府代表団を支援した。奈良文書20周年記念会合、ICOMOS総会、ICCROM理事会では、国際情報の収集に努め、各国の専門家と情報交換を行った。無形文化遺産政府間委員会については、審議の要約を作成した。

2. 文化遺産（動産文化財）保護についての調査・研究

アメリカ国内には2万館を超えるミュージアムが存在し、指定品クラスの日本の美術作品を収蔵している美術館も少なくないが、文化行政を担当する省庁は存在せず、独自の方法で文化財が保護されている。また、欧米の美術館の果たしている歴史的・社会的役割は、日本における文化財保護を考える上で、大いに参考になる。以下の美術館において、所蔵日本美術作品及び作品管理状況についての調査を行った。

2015（平成27）年3月9日～14日 メトロポリタン美術館、フィラデルフィア美術館

3. 対訳法令集シリーズの刊行

本年度はシリアについて、文化財保護関連の基本的法令の条文を和訳し、対訳法令集シリーズとして1冊刊行した。

4. 選定保存技術に関する調査

日本の選定保存技術の伝統や技術を広く国内外に発信していくために、蒔絵筆（京都）、本藍染（滋賀）、檜皮採取（兵庫）、左官（東京）、玉鋼製造（島根）、手漉和紙用具製作（愛媛）についての調査を実施した。また、日本の文化財や当研究所の果たす役割についての理解を促進するために、カレンダーを作成した。

5. 台湾師範大学との研究協力

台湾に所在する日本関係の文化遺産の調査・研究、保存修復に関する研究、人材育成、情報共有などに関して協力・交流を行うために協定書を調印し、先方から特に要請のあった染織関係の講座を開講した。

発表

- ・ 境野飛鳥「日本の文化財保護」史跡整備と展示に関する人材育成ワークショップ 東京文化財研究所 14.7.3
- ・ 二神葉子「第38回世界遺産委員会」第16回文化遺産国際協力コンソーシアム研究会・文化遺産保護の国際動向 15.3.2

②国際協力・交流等 Area10

刊行物

- ・『各国の文化財保護法令シリーズ [19] シリア』東京文化財研究所 15.3
- ・『国際資料室蔵書目録』東京文化財研究所 15.3
- ・文化財を守る日本の伝統技術 2015.4.1～2016.3.31 カレンダー（壁掛け版・卓上版）東京文化財研究所 15.3

研究組織

- 江村知子、川野邊渉、山内和也、友田正彦、加藤雅人、境野飛鳥、新免歳靖、渡部妥子、高多加奈子、半戸文（以上、文化遺産国際協力センター）、二神葉子（企画情報部）

東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 (②セ02-14-4/5)

目 的

ASEAN 諸国を中心とする東南アジア及びその周辺地域は、多くの貴重な文化遺産を有し、我が国との文化的交流も緊密であるが、文化遺産保護体制や専門技術の水準において未だ課題を抱えている国が少なくない。このため、当該地域における保存修復事業への協力及びこれに関する調査研究の実施を通じて文化財の保存・修復に関する技術移転を図るとともに、この分野での国際協力を推進する。

成 果

1. カンボジア：(1)タネイ遺跡保存整備計画策定支援：2014（平成26）年5月18日から21日の間、アプサラ機構の担当部局とともに、タネイ遺跡の保存整備計画策定に向けて今後必要な調査項目・内容の検討を行った。その結果を受けて、7月20日から30日の間、前年度までの建築遺構実測研修の成果も活かしつつ、同遺跡現地で、デジタル写真画像から三次元モデルを作成するSfM（Structure from Motion）技術を試行し、現状立面図作成のための作業フローを確立するとともに、精度の検証等を行った。一連の作業はできるだけカンボジア人スタッフ主体で実施することで、技術移転に留意した。(2)ICC出席：2014（平成26）年6月4、5両日にシエムレアプで開催されたアンコール遺跡保存開発国際調整委員会（ICC）第23回技術会議に参加し、活動報告を行った。また、12月5日に開催された同第21回本会議、前日の4日に開催された第1回プレアヴィヒア遺跡国際調整委員会会議にも参加し、保存と国際協力の現状や課題に関する情報収集等を行った。
2. タイ：漆工芸品の保存に関する協力：前年度に引き続き、タイ文化省芸術局の要請にもとづく、バンコク市内ラチャプラディット寺院の扉に施された螺鈿装飾の保存に向けた協力を行った。2015（平成27）年1月13日から17日にかけて、同寺院にて、本堂扉の螺鈿装飾部位を対象に蛍光X線分析装置による測定を行い、螺鈿背面に使用されている金属箔片や顔料の同定などを行ったほか、タイ文化省芸術局関係者との研究打合せ等を行った。さらに、2月22日から28日にかけて、同寺院において高精細画像等の撮影を含む劣化状況の記録作業を行ったほか、同局関係者と修復方針等に関する研究会を行った。
3. ミャンマー：(1)伝統的漆工芸品の保存協力協定締結：ネピドーの協同組合省にて、U Mya Than 小規模産業局長代理ほか出席のもと、同局との協定書の署名式を行った。(2)伝統的木造建築に関する研究会開催：2015（平成27）年2月11日から18日にかけて、建築家のR. Myo Myint Sein氏及び技術大学マンダレー校のZar Chi Min 准教授を招聘し、13日には東京文化財研究所セミナー室にて研究会「ミャンマーの木造建築文化」を開催した。日本側研究者を含む発表とパネルディスカッションを行い、既往の研究成果を共有するとともに、今後の調査研究上の課題や歴史的建造物の適切な保護に向けた方向性などが議論された。また、招聘者とともに日本国内の文化財建造物やその修理現場等を見学しながら意見交換を行った。研究会には所内関係者も含めて計61名が参加した。さらに、4名の発表者による論考と研究会での討議内容を収録した報告書を刊行した。
4. その他：ブータンにおいて過去に日本人専門家が行った建造物調査のデータ類をデジタル化し、目録等の整理を行った。その後に改造されたり既に失われたりした建物に関する記録もあることから、貴重な資料として同国の文化遺産保護担当部局と共有し、今後の活用が期待されている。

以上の今年度活動内容を成果報告書にまとめて刊行したほか、別途ミャンマーの木造建築文化に関する研究会の報告書を刊行した。

②国際協力・交流等 Area11

刊行物

- ・『東南アジア諸国等文化遺産保存修復協力 平成26年度成果報告書』東京文化財研究所 15.3
- ・『ミャンマーの木造建築文化Traditional Wooden Buildings in Myanmar』（日本語、英語併記）東京文化財研究所 15.3

研究組織

- 友田正彦、川野邊渉、山下好彦、佐藤桂、山田大樹、増渕麻里耶、新免歳靖、北川瑞季（以上、文化遺産国際協力センター）、二神葉子（企画情報部）

西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業 (②セ03-14-4/5)

目 的

西アジア諸国、とくに内戦・紛争によって危機にさらされているアフガニスタン及びイラクの文化遺産の調査研究や文化遺産の保護・保存修復事業を通して、技術移転及び人材育成を図り、自国民の手による文化財保護事業の確立の支援を目指す。また、あわせて周辺地域（特に中央アジア、インド、コーカサス）の文化遺産の調査研究・保護への協力を実施する。

成 果

1. アフガニスタン（バーミヤーン）

ア) アフガニスタン文化財専門家研修事業：文化遺産国際協力拠点交流事業 キルギス共和国及び中央アジア諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業「史跡整備と展示に関する人材育成ワークショップ」と連携して、2014（平成26）年7月2日から15日にかけて人材育成事業（研修生 計14名の参加）を実施した。この事業の中で、アフガニスタン国立博物館、情報文化省、考古学研究所より各1名、考古学及び建造物保存修復の専門家を招聘し、人材育成を行った。

イ) バーミヤーン遺跡保護のための研究会の開催：4月30日に日本イコモス国内委員会と「バーミヤーン東大仏の「足」と「部分的再建」を考える」を共催した（専門家14名の参加）。その後、上記のテーマに関する提言を作成し、発表した。

ウ) アフガニスタン文化遺産調査資料集の出版：昨年度バーミヤーン遺跡において、アフガニスタン情報文化省と共同で行った11次ミッションについて報告書を作成、刊行した。また、既刊である『アフガニスタン文化遺産調査資料集別冊第4巻 バーミヤーン遺跡資料集1 バーミヤーン谷中心部の文化的景観：1970年代』、『アフガニスタン文化遺産調査資料集別冊第5巻 バーミヤーン遺跡資料集2 バーミヤーン谷中心部の地形測量』のDVD版を刊行した。

エ) 外部機関・団体との共同研究等：名古屋大学「ユーラシア大陸における文化遺産資料の自然科学的手法による年代学的研究」；名古屋大学への委託事業を通して、バーミヤーン遺跡などアジア各地の遺跡の出土遺物を対象に高精度の放射性炭素年代測定を実施し、考古・美術史研究の知見と総合して、遺跡の年代学的研究を行った。

2. 西アジア周辺諸国における文化遺産の調査研究・保護への協力等

ア) タジキスタン：ユーラシア壁画の調査研究と保存修復事業と連携し、タジキスタンにて2014（平成26）年9月11日から10月2日にかけて、国立古代博物館所蔵のフルブック断片壁画の保存修復を行い、博物館内に展示した。

イ) キルギス共和国：文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業と連携し、2014（平成26）年10月27日から11月1日に掛けて、展示と報告書作成に関する人材育成ワークショップを行った（研修生12名の参加）。11月29日から12月8日にかけて、遺物のドキュメンテーションのための現地作業を行った。

ウ) ユネスコ／中央アジア文化遺産保護事業に関する報告書を作成し、刊行した。

エ) アルメニア：文化庁委託文化遺産国際協力拠点交流事業と連携し、アルメニア共和国歴史博物館との考古青銅遺物の保存修復に関するワークショップを2014（平成26）年5月20日から24日まで開催した（研修生8名の参加）。

オ) イラン：新世紀国際教育交流プロジェクトと連携し、2014（平成26）年8月26日から9月5日に掛けてイラン文化財専門家を招聘し、それに併せてイラン文化財保護に関する研究会を8月29日に開催した（専門家10名の参加）。2015（平成27）年1月7日から23日にかけて、イランにおける文化遺産の視察および先方関係機関との意見交換を行った。

②国際協力・交流等 Area11

カ) エジプト: JICA受託「エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト」にかかる支援業務および同プロジェクトの「保存修復材料としての和紙研修」受託業務を行った。

キ) ヨルダン: JICAが主導し進めている「ペトラ博物館」建設計画にかかるアドバイザー業務を行った。

3. 国際会議等の主催・参加

ア) 公開シンポジウム「シリア文化遺産の保護に向けて」(6月23日、於東京文化財研究所、主催)

イ) 「To Safeguard Syria's Cultural Heritage: International Expert Meeting」(5月26日～28日、於ユネスコ本部(パリ)、フランス、出席者: 山内和也、安倍雅史)

ウ) 「International Symposium on Conservation of Ancient Sites on the Silk Road 2014」(10月8日～9日、於敦煌、中国、出席者: 山内和也)。

報告

・山内和也「バーミヤーン東大仏の『足』と『部分的再建』を考える」『INFORMATION』9-6 JAPAN ICOMOS p.16 14.6

・山内和也「世界遺産としてのシルクロードー日本による文化遺産国際協力の軌跡ー」『INFORMATION』9-8 JAPAN ICOMOS p.16 14.6

発表

・安倍雅史・新井才二「アク・ベシム遺跡出土の羊距骨とキルギス伝統遊戯チュコ」日本西アジア考古学会第19回総会・大会 日本西アジア考古学会 鎌倉女子大学 14.6

・藤澤明、有村誠、邊牟木尚美、山内和也、Anelka GRIGORYAN「アルメニア共和国ルチャシェン遺跡から出土した考古金属資料の科学的調査」文化財保存修復学会第36回大会 明治大学 14.6

・Yamauchi, K. "Conservation of the Bamiyan Mural Paintings, Afghanistan" Dunhuang Forum: International Symposium on Conservation of Ancient Sites on the Silk Road 2014 Dunhuang China 14.10

・山内和也「バーミヤーンの保護活動の現状」文化遺産国際協力コンソーシアム第23回西アジア分科会 東京文化財研究所 14.9

・Rei HARADA, Kazuya YAMAUCHI, Shigeyuki OKAZAKI, Yasuyoshi OKADA, Kazushi HAMAZAKI, Hideaki TEMBATA, Kensuke OHISHI, Mitsuhiro OSAKI, Adel ZUREIKAT "Initial Heritage Impact Assessment for the Project for Construction of the Petra Museum, Jordan" ICOMOS 18th General Assembly Florence Italy 14.11

刊行物

・『バーミヤーン遺跡保存事業概報: 2013年度(第11次ミッション)』東京文化財研究所 15.2

・『NRICP Final Report of the 2011-2013 UNESCO/Japan Funds-in-Trust Project』東京文化財研究所 15.3

・『Indo-Japanese Joint Project for the Conservation of Cultural Heritage, Series 4, Indo-Japanese Project for the Conservation of Ajanta Paintings: Conservation and Scientific Investigation of the Paintings of Ajanta Caves 2 and 9』東京文化財研究所 15.3

・『Armenia- Japanese Joint Project for the Conservation of Cultural Properties Volume 2 Conservation and Scientific Research of the Archaeological Metal Objects at the History Museum of Armenia 2011-2015』東京文化財研究所 15.3

・『シリア復興と文化遺産』東京文化財研究所 14.5

研究組織

○川野邊渉、山内和也、安倍雅史、川口雄嗣、田島さか恵、久米正吾、藤澤明、山田大樹、増渕麻里邪、山藤正敏、近藤洋、本郷浩志、小川絢子(以上、文化遺産国際協力センター)、森本晋、石村智、田代亜紀子(以上、奈良文化財研究所)、松田泰典、杉原朱美、間舎裕生、釘屋奈都子、谷口陽子、邊牟木尚美、鈴木環(以上、客員研究員)

在外日本古美術品保存修復協力事業 (②セ04-14-4/5)

目 的

日本の文化財は欧米を中心に海外でも多く所蔵されている。しかし、これらの保存修復の専門家は海外にほとんどおらず、多くの博物館などで適切な処置に窮している。そこで、海外で所蔵されている掛軸などの紙本絹本文化財および漆工芸品のうち、本格的な修復が必要な作品を一旦日本に運び、修復して返還することを目的としている。また、ワークショップを開催し保存修復に必要な日本の文化財に対する理解の深化、修復技術の移転を行う。

成 果

1. 作品修復

ア) プロツワフ国立博物館（ポーランド）所蔵 五十嵐道甫作 秋野蒔絵硯箱 1合 修復中。

2. 作品調査

ア) ポーランド：日本美術技術博物館マンガ（クラクフ）にて修復候補作品選定（絵画）のための悉皆調査及び状態調査を行った（2015（平成27）年1月12日～23日及び2月1日～7日）。

イ) スペイン：ナバラ博物館及びナバラ古文書館（ナバラ）にて修復候補作品選定（漆工芸品）のための状態調査を行った（2015（平成27）年1月25日～30日）。

ウ) イギリス：ヴィクトリア&アルバート美術館（ロンドン）、チディングストン城（ケント）及びマンチェスター博物館（マンチェスター）にて修復候補作品選定（漆工芸品）のための状態調査を行った（2015（平成27）年3月9日～14日）。

エ) オーストラリア：ヴィクトリア国立美術館（メルボルン）及びオーストラリア国立美術館（キャンベラ）にて修復候補作品選定（絵画）のための状態調査を行った（2015（平成27）年3月14日～21日）。

3. ワークショップ

ア) Workshops on Conservation of Japanese Artworks on Paper and Silk、於 ベルリン国立博物館アジア美術館（ベルリン・ドイツ）：(Workshop 1) “Basic-Japanese paper and silk cultural properties-” 2014（平成26）年12月3日～5日、参加者20名、(Workshop 2) “Advanced-Restoration of Japanese hanging scroll-” 2014（平成26）年12月8日～12日、参加者15名（オブザーバー5名含む）

イ) Workshops on the Conservation and Restoration of Urushi (Japanese Lacquer) Ware、於 ケルン市博物館東洋美術館（ケルン、ドイツ）：(Workshop I) 2014（平成26）年11月15日、参加者11名。(Workshop II) 2014（平成26）年11月18日～21日、参加者6名。(Workshop III) 2014（平成26）年11月25日～28日、参加者6名。

発表

- ・山田祐子、加藤雅人、楠京子「文化財修復材料として使用する除去可能な色材の検討」文化財保存修復学会第36回大会 明治大学 14.6.7-8
- ・山田祐子、加藤雅人「絵画用絹の加工方法と照明角度による見え方の相違について」日本色彩学会第2回大会 静岡市清水文化会館マリナート 14.11.14-15

刊行物

- ・『在外日本古美術品保存修復協力事業 出山釈迦図』東京文化財研究所 15.3
- ・『在外日本古美術品保存修復協力事業 山水図』東京文化財研究所 15.3
- ・『在外日本古美術品保存修復協力事業 寒山拾得図』東京文化財研究所 15.3
- ・『在外日本古美術品保存修復協力事業 靈照女図』東京文化財研究所 15.3

②国際協力・交流等 Area11

研究組織

○川野邊渉、加藤雅人、江村知子、山下好彦、楠京子、山田祐子、川端冴子、山之上理加、嶋原由美、木原山奈々、北川瑞季（以上、文化遺産国際協力センター）、早川典子（保存修復科学センター）、田中淳、塩谷純（以上、企画情報部）、今城裕香、深井啓、鈴木絢香（以上、研究支援推進部）

ユーラシア壁画の調査研究と保存修復 (②セ06-14-2/3)

目 的

ユーラシア世界の壁画の技法材料に関する調査研究を行い、適切な保護、保存修復の手法を検討するとともに、壁画の造形表現と歴史的・文化的背景についても調査研究を行う。さらに、他分野の専門家とも学際的に協力、連携し、壁画という文化遺産を総合的に調査研究する。地域的には、ユーラシア地域、中でもアジア地域の壁画を主な対象とする。

成 果

1. 敦煌莫高窟壁画

ア) 2014 (平成26) 年 8 月25日～30日/10月10日、莫高窟第285窟 4 壁にて携帯型蛍光X線分析計、顕微鏡、分光光度計を用いた材料の選択・描画技法についての調査。

イ) 2014 (平成26) 年11月24日～12月13日、保護研究所張文元研究員の招聘および技術研修の実施。

2. 陝西墳墓壁画

ア) 2014 (平成26) 年 8 月24日、陝西歴史博物館壁画館、西安交通大学、及び漢陽陵地下遺構博物館の視察。

3. タジキスタン国立古代博物館所蔵の壁画断片の保存修復

ア) 2014 (平成26) 年 9 月10日～10月 3 日、タジキスタン国立古代博物館所蔵フルブック遺跡出土壁画断片の修復・マウント作業および修復後の壁画の展示と成果公開。

イ) 2015 (平成27) 年 3 月 1 日～10日、タジキスタン国立新博物館等所蔵ペンジケント遺跡及びフルブック遺跡出土壁画断片の写真撮影、調査・研究、資料整理の実施。

4. 国内外研究機関との協力体制構築のための調査

ア) 2014 (平成26) 年11月26日～12月 5 日、イタリアおよびドイツにて壁画の保存修復技法に関する現地調査。

イ) 2014 (平成26) 年12月11日、12日、「ユーラシア壁画の調査研究と保存修復に関する研究会」の主催。

ウ) 2015 (平成27) 年 2 月15日～20日、ウズベキスタンの国立歴史博物館等への視察ミッションの実施。

発表

- ・三箇山茜、鈴木修一、小椋大輔、中田雄基、岡田健、蘇伯民「敦煌莫高窟第285窟の壁画の劣化と外気流入との関係」日本建築学会平成26年度近畿支部研究発表会 大阪 14.6.22
- ・鈴木修一、小椋大輔、岡田健、宇野朋子、蘇伯民、高林弘実、渡辺真樹子「敦煌莫高窟第285窟壁画の劣化要因の検討」日本建築学会平成26年度近畿支部研究発表会 大阪 14.6.22
- ・中田愛乃、高林弘実、崔強、岡田健「敦煌莫高窟第285窟に描かれたパルメット文様の彩色材料および技法」日本文化財科学会第31回大会 奈良 14.7.5-6
- ・福島千晴、高林弘実、岡田健、蘇伯民「敦煌莫高窟第285窟西壁の供養菩薩群の制作工程」日本文化財科学会第31回大会 奈良 14.7.5-6
- ・Okada Ken, What Does the “Conservation” of mural Paintings Mean? – As seen in Research on Cave 285, Mogao Grottoes, Dunhuang, Dunhuang Forum, Dunhuang, China, 14.10.8
- ・Yamauchi Kazuya, Conservation of the Bamian Mural Paintings, Afghanistan. Dunhuang Forum, Dunhuang, China, 14.10.9
- ・Okada Ken, The Importance of Pan-Asian Specialist Cooperation for Advances in the Study and Conservation of Eurasian Mural Painting, Shaanxi History Museum Conference 2014, 14.10.16

②国際協力・交流等 Area11

刊行物

- ・『敦煌壁画の保護に関する日中共同研究2014』東京文化財研究所/敦煌研究院 15.3
- ・『ユーラシア壁画保存修復に関する比較調査報告書』東京文化財研究所文化遺産国際協力センター 15.3
- ・『ユーラシア壁画の調査研究と保存修復に関する研究会報告書』東京文化財研究所 15.3

研究組織

- 岡田健（保存修復科学センター）、○山内和也（文化遺産国際協力センター）、早川泰弘、犬塚将英、吉田直人、森井順之（以上、保存修復科学センター）、皿井舞（企画情報部）、藤澤明、小川絢子、増渕麻里耶、山藤正敏（以上、文化遺産国際協力センター）、高林弘実、渡邊真樹子、津村宏臣（以上、客員研究員）